私達にできる幸せの社会貢献。

日本での役割を終えたランドセルをアフガニスタンに送りませんか。

小学校を最後まで終える女の子は4割。

2004年から23万人のアフガニスタンの子ども達にランドセルを手渡しています。

子どもの夢を育んだランドセルがアフガニスタンの子どもに届きます。

貧しい村の女の子にも、学校に通える幸せを。

アフガニスタンの子ども達から喜びの声が届いています。

9歳の時にノートとクレヨンが入ったランドセルをもらいました。
ビニール袋で通っていたのでうれしくて抱いて寝ました。
どんなことがあっても勉強を続け、今は医師として働いています。

資料提供　ジョイセフ

思い出のランドセルギフト

公益財団法人ジョイセフは、世界の妊産婦と女性の命と健康を守る活動をしている国際協力NGO。
現地の子ども達にランドセルを手渡すために、検品、梱包、輸送、配布を行っています。

ジョイセフ ランドセル　検索

思い出のランドセルギフト
Facebookページで最新の情報をご紹介しています。

女性、選択できる世界を。
JOICFP
www.joicfp.or.jp/rand

お問い合わせ
info@joicfp.or.jp　03-3268-5875
〒162-0843　東京都新宿区市谷田町 1-10
保健会館新館

INTERNATIONAL Since 1922

思い出のランドセルギフト プロジェクトクラブ
神戸ポートワイズメンズクラブ

〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町 2--7-11 神戸 YMCA 国際・奉仕センター

後援：ワイズメンズクラブ国際協会西・東日本区

思い出のランドセルは SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

一つでも多くの夢を 届けたい。

思い出のランドセルギフトとは

- 思い出のランドセルギフトは、日本で役目を終えたランドセルをアフガニスタンに寄贈し、子どもたち、特に教育の機会に恵まれない女の子の就学に役立てる国際支援活動です。
- ランドセルを受け取ることで、学校で教育を受ける機会が生まれ、日本のランドセルは、アフガニスタンの子どもたちの人生に大きなチャンスを与えてきました。
- 子どもたちが学校で学び、読み書きができるようになって、自分自身や家族を守る知識や情報を身につけられるようになることを目指しています。
- 貧困のために、子どもの就学に同意しなかった親たちの間にも、子どもたちに日本から送られたランドセルを背負わせて勉強させてやりたいという気持ちが芽生えました。
- ランドセルを男女平等に配ることで、「女の子も男の子と同じ様に学校へ通うのが当たり前」という考え方が地域で根づき始めています。
- アフガニスタンの女性と赤ちゃんの命を救う第一歩は教育です。ランドセルは、その第一歩を踏み出すためのきっかけづくりに役立ています。

子どもの夢を育んだランドセルがアフガニスタンの子どもに届きます。

ランドセルに私達の思いをのせて

- アフガニスタンの子どもたち、特に女の子の修学に役立てるために、役割を終えたランドセルを寄贈する「思いでのランドセルギフト」。
- 2004 年に開始して以来、およそ 19 万個のランドセルが現地に届けられ、女の子が学校に行くきっかけ作りに役立てられてきました。ランドセルを受け取った現地の女の子の中には、日本からのランドセルのおかげで勉強を続けることができた、夢を描く力をもらったという嬉しいメッセージも届けられています。

ランドセルが届くまで

学用品とランドセルがアフガニスタンに届くまで

集まったランドセルはボランティアによって検品、梱包される。新品の学用品とともには個に詰められる。
40 フィートコンテナに詰められて、ランドセルは海を渡る。
パキスタンの港についたら、コンテナをトラックに積み替えてアフガニスタンに向け出発!
パキスタンとアフガニスタンの国境付近のカイバル峠。治安が悪く、封鎖されることもある。
ランドセル一つひとつに学用品が詰められ、袋に移し替えてトラックの荷台に乗せられそれぞれの村の学校に向かう。
ランドセルは一人ひとりに手渡しされる。

資料提供　ジョイセフ

思い出のランドセルギフト

ランドセルの海外の運送費はワイズメンズクラブが支援します。

- 横浜ジョイセフ横浜貿易倉庫への送料は個人負担となります。
- アフガニスタンへの海外輸送費用はワイズメンズクラブが支援いたします。
- 使わなくなった文具があればランドセルの中に入れてください。
- アフガニスタンの友達にメッセージ（日本語）を入れてください。自分の写真を入れるとアフガンの友達は喜びます。

ランドセルの送り先

横浜ジョイセフ 横浜倉庫
〒224-0053
神奈川県横浜市都筑区池辺 4261-13
横浜貿易倉庫内
「サテライト ジョイセフ ランドセル係」

INTERNATIONAL Since 1922

ワイズメンズクラブは一人でも多くの子どもたちにランドセルを送るJOICFP の活動を応援しています。

思い出のランドセルギフトプロジェクトクラブ
神戸ポートワイズメンズクラブ
〒650-0001　兵庫県神戸市中央区加納町 2--7-11　神戸 YMCA 国際・奉仕センター
お問い合わせ　E-mail　ohnobentsutomu@hotmail.jp　TEL 078-241-7204

後援：ワイズメンズクラブ国際協会西・東日本区

聞いてみたい！

使い終わったランドセル、寄付できるって本当？

吉田記者

戦火の国の子へ 贈り物

日本のNGO アフガン支援

小学校6年間の思い出が詰まったランドセル。使い終わった後、皆さんはどうしていますか？　国際協力NGO「ジョイセフ」（東京都新宿区）は、15年以上にわたって、使用済みのランドセルをアフガニスタンの子どもたちに贈る活動を行っています。（高2・遠田剛志、大島彩也夏、中3・丹羽美貴、中1・青木咲良、小6・吉田桜記者）

ジュニアプレス

04年から

ジョイセフは元々、戦後の日本で学者や医療関係者らが連携して女性や子どもを支援していた団体でした。その後、国内の支援対象が減ったのを機に、国連などからノウハウを海外で役立てては、と声を掛けられ、1968年に発足した〝日本生まれ〟のNGO（民間活動団体）です。現在は、アフリカを中心に女性や子どもの支援をしているほか、国内では被災地へ支援物資を送るなどの活動を行っています。

アフガニスタンにランドセルを贈る「思い出のランドセルギフト」活動を担当しているジョイセフの甲斐和歌子さん(44)によると、この活動はランドセルの素材メーカーから使用済みのランドセルを再利用できないかと相談を受け、2004年から始まりました。

■鉛筆や跳び縄も

数十年にわたって内戦が続いているアフガニスタンでは、女性や子どもは病院や学校になかなか来られず、様々な情報や知識を伝えることもできません。ランドセルを配れば子どもたちが学校に来るようになり、そうしたことを知らせることができるのではないか――とこの活動が始まりました。

22万個以上

ランドセルを贈っているのは、アフガニスタンの中でも特にテロ活動が多く、教育が影響を受けている東部のナンガハール州。ランドセルは国内の倉庫に集められ、一つひとつチェックしてコンテナ船でパキスタンの港まで運びます。そこからトラックに載せ、陸路で学校に届けます。現地のNGOと連携を密にして、どこに配るか、無事配れるか、を確認して、これまでに22万個以上を届けたといいます。

贈るのは、小学1～3年生。普段は教科書を手で持ったり、使い古したポリ袋などに入れたりしていた子どもたちが、ランドセルを受け取って目を輝かせる様子が「励みになる」と甲斐さん。ランドセルは、贈った子のきょうだいまでずっと大事に使われているそうです。ランドセルの中には、鉛筆や消しゴム、ノートといった新品の学用品のほか、クレヨンや縄跳びの縄などを入れて贈ることもあります。縄跳びで遊ぶ女の子たちの動画も見せてもらい、私たちと同じだなと思いました。

希望も届く

アフガニスタンでは、「女の子は学校に行かなくてもいい」という意識が強く、学校に通っている女の子は国全体で2人に1人、卒業するのは4割しかいません。通学中の治安を心配して学校に行かせない親もいるそうです。紛争で校舎が破壊され、屋外で授業を行っている学校もあります。そんな中で、復興に教育は不可欠だという考えが共有されていると聞いて、胸が熱くなりました。

紛争のため、活動の成果を数字で表すのは難しいそうです。でも現地の人に聞くと、ランドセルを背負って子どもが学校に行けば、学校に行っている子といない子が一目で分かって教育が「見える化」し、「男女同じように学校へ行ってもいい」という考えが親たちにも浸透してきたといいます。

何より紛争で親を亡くしたり、親が働けなくなったりして孤独を感じている子にとっては、ランドセルを贈れば「日本の友達が遠くから応援してくれているというメッセージが伝わり、支えになるのではないでしょうか」と甲斐さんは力を込めます。

話を聞いて、毎日学校に通えるのは当たり前ではなく幸せなことで、この活動はランドセルだけでなく、夢や希望も届けているのだと感じました。寄付を喜んでくれる子どもたちがいるのを忘れず、私たちも物を大切にしていきたい、と思いました。

ランドセルを贈るには、輸送費を一緒に寄付する必要があります。詳しくは、ジョイセフホームページ（https://www.joicfp.or.jp/jpn/donate/support/omoide_ransel/）へ。

ランドセルをもらい、目を輝かせて喜ぶ女の子

◀ 多くの子は教科書やパンを使い古したポリ袋に入れたり、直接手で持ったりして学校に通っているそう（いずれも国際協力NGOジョイセフ提供）

生活 調べ隊

ランドセル 再利用広がる

リュックへの関心が高まってはいるが、なじみのあるランドセルへの支持も根強い。ランドセル工業会（東京）などによると、ランドセルの起源は幕末の西洋式軍隊が使用した布製リュックに遡る。現在の革製箱形は、伊藤博文が1887年、のちの大正天皇の学習院入学を祝って献上したのが始まりという。一般家庭へは、戦後の高度経済成長期以降に普及した。

最大の強みは丈夫さにある。頑丈に作られたランドセルは6年間の役目を終えても、まだ十分使えるものも多い。

再利用の取り組みも広がっている。福井市は2018年度から、市民から使用済みのランドセルを寄付してもらい、必要な世帯に無償で提供する事業を始めた。19年度末までに79個が譲渡された。経済的な事情で購入が難しい家庭のほか、リュックでの通学が一般的な地域から引っ越してきた人らが活用する。

福井県民生活協同組合（福井市）も今春、同様の取り組みを行った。運送サービスなどを手掛ける「流通」（鳥取県倉吉市）は、10月から使用済みランドセルを募り、譲渡会や同社店舗で個別に配布している。

いずれも寄付の受け付けは終了している。

国際貢献にも役立っている。公益財団法人「ジョイセフ」（東京）は、使用済みのランドセルをアフガニスタンに送る活動を続けている。男女平等にランドセルを配ることで、男子に比べて教育の機会が少ない女子の就学を支援する。

現地への輸送費として1800円を同法人へ振り込んだ上で、横浜市にある倉庫に送る。ランドセルの中に鉛筆や文具など新品の文房具を入れることもできる。担当者は「日本から届くランドセルが子どもたち、特に女の子の人生に大きなチャンスを与えることになる」と話している。

ランドセルの譲渡についての問い合わせ先

流通（配布のみ）
0858・22・1211

ジョイセフ（寄付のみ）
03・3268・5875

ウェブサイト専用ページ
https://www.joicfp.or.jp/jpn/donate/support/omoide_ransel/

▲日本から届いたランドセルを使う女児ら（ジョイセフ提供）

納得できる物を

子どもの貧困が社会問題になる中、ランドセルの価格が年々上昇していることに疑問を感じていた。

我が家にも再来年入学の長男がいる。取材を進めるうちに機能的にも優れた通学用リュックにひかれた。

そんな親心を見透かすように、長男が突然「ランドセルいつ買うの」と聞いてきた。保育園で話題になったのか、「緑か黒がいい」と色まで決めている様子で、心が揺らぐ。

幸いまだ時間はある。長男にも色々な選択肢があることを説明し、親子で納得できるものを探したい。